



第11回「府中ホスピスを考える会」総会にあたって

現代医療の進化は、実に目覚ましいものがあります。終末期医療につきましても同様のことが言えます。

NHKで報道されました小平の山崎章郎先生の医療に私たちの取り組んでおります「府中ホスピスを考える会」の今後について多くの示唆を受けました。

私たちがこれまで11年にわたって展開してきました「府中ホスピスを考える会」の進むべき方向が具体的に見えてきたように感じているところです。

これまでは「ホスピス」と「緩和ケア」「終末期をどう受け止め、受け入れるか」が勉強会の中心だったように思っていますが、この辺で一度これまでの運動を総括し、次の展望をみんなで考え次なる一歩へ踏み出さねばならないと考えております。

参考ビデオ

NHK「クローズアップ現代」で放映された

『地域とつながる安心の住まい』10分

参考資料

H23年9月14日にホスピスを考える会の一役員として野口市長宛てに、府中市にホスピスケアの核となる施設設立についての手紙を送りました。内容としては、平成21年に署名活動を行い、市議会により採択された後、府中市としてどのように対応して頂けるのか、野口市長のお考えを求め、また、府中市内の在宅療養診療所の医師や、訪問看護ステーション、他の医療機関とのネットワークづくりの必要性、およびモデル事業設立の為にプロジェクトの立ち上げの提案もいたしました。H23年10月12日付けで次の内容でお返事を頂きました。

23 府政広手収第 202 号の 2
平成 23 年 10 月 12 日

市原美幸様

府中市長 野口忠直

市長への手紙拝見いたしました。

ホスピスケアの核となる施設の建設について、お返事いたします。

はじめに、皆様方の熱心な活動に対しまして心より敬意を表します。

繰り返しになりますが、ホスピスケアに対する本市の方針につきまして、お答えいたします。

現在のところ、市が主体となり、公設のホスピスを建設及び運営することは考えておりませんが、市民の皆様方の機運が盛り上がり、設置場所や建設概要などが具体的に決まりました際には、市として支援できる事項を検討いたします。また、医療・介護等との連携を含めたホスピスの在り方、位置付けなどについても、調査研究してまいります。なお、具体的な支援方法といたしましては、設置を希望される団体等が中心となり、実現可能な資金と人材を確保したうえで、診療体制、事業計画、施設概要、建設場所、運営方法、人員体制などの構想を具体的に策定していただいた際に不足する部分を、市が側面から支援することになるものと考えております。

また、現在、東京都において、在宅療養の推進を図るため、東京都在宅療養推進会議が設置され、在宅療養の推進やネットワークづくりにつきまして、課題と今後の方向性について協議を行っていると聞いております。

本市としましては、その動向を見極めつつ、また他市の状況も参考にしながら、研究を進めてまいりたいと考えております。

いずれにいたしましても、ホスピスケアのもつ意義等を尊重するという、本市の姿勢につきましては変わるものではございませんので、ご理解いただきますようお願い申し上げます。お手紙ありがとうございました。

府中ホスピスを考える会・第30回勉強会概要

『家族の立場から在宅ホスピスを考える』

2011年10月2日(日)

府中医王訪問看護ステーション



地域看護専門看護師
ご利用者ご家族



宮田乃有さん
荻野和子さん

I. 在宅で家族を看取るということ：荻野和子氏の経験

1. 荻野ご夫妻のご紹介 40年銀行員、定年後年金生活、20年来糖尿病

2.在宅療養まで

①ご主人との暮らし 奥様は財布握らず、すべて夫任せ。

①病気がわかったきっかけ 2010年6月19日せきがひどく呼吸困難となり救急車で多摩 ER へ
診断の結果ガン末期とわかった。

①告知 夫婦は以前から延命しないと話し合っていた。

①入院そして在宅へ 緩和治療で医王病院へ入院、本人は家に帰りたいと望んだ。

①ケアマネジャーの関わり 7月31日退院、8月3日から訪問看護開始、

3.在宅療養の始まり

①訪問看護の開始 自宅看護のための設備(ベッド等)、暫定認定、ケアマネと業者が入って
チームで動き、対応がとてもよかった。

②訪問診療の導入 介護保険での利用は間に合わない、暫定で前倒しの利用、8月9日医師
が入る。

③体調の管理と症状の緩和 余命10ヶ月(実は2ヶ月?)薬を少なくして体の負担を軽くした。

④在宅での介護 普段頑固なのに医療者の指示はよく聞き、紙に書いて残した。

4.在宅での看取り

①最期のとき 8月20日、血圧低下、ソフトランディング、呼吸困難、シャワーのあとに見に行
ったら呼吸をしていなかった。「行ってらっしゃい」といった。聞こえていると思ってお別れ
した。夜8時ころ医師に連絡、死亡時刻は脈が止まった時でなく、医師が宣告したとき。

②「ボス」の遺言 生前死んだ時の着てゆく着物はルパシカを、葬儀はご近所と家族のみ、1周忌は
しない、3回忌のときまで書いてあった。

II. 府中医王訪問看護ステーションの現状

1.「普通」のステーションとして頑張っています

:ステーションの概況 100床ある医王病院の一部、スタッフは6名の看護師と作業員1名ケア
マネ1名、対象は子供から超高齢まで、指定医はいない。

2.子どもから超高齢者まで、疾患も障害もいろいろです

:利用者の概況 現在4歳から102歳までの利用者がいます。

3.地域に根ざしています

:利用者の主治医の概況 主治医はホームドクターにお願いしている。

4.ターミナルケアに力を入れています

:在宅看取りの状況 今年の看取り患者は13名、内11名が癌でした。

III. 在宅ホスピスケアの基礎知識

1.ホスピスケアとは

- ・施設? がん患者は痛みのコントロールで入る場合もあります。
- ・在宅? 訪問看護が充実してきているので、家族の方にも安心です。

2.緩和ケアとは

・末期がんだけ? 看取りとは違う、新薬が開発されて変わってきた。

3.がん治療の現状

・ホスピスケアに限らない在宅療養期間 寝たきりになるのは短い。

4.療養者にとっての在宅ホスピスケア

- ・メリット 生活の続きができる、リスクは多いが自由はある。
- ・デメリット 緊急時の対処の不安、老々介護、付き添い必要な場合等。

5.家族にとっての在宅ホスピスケア

- ・メリット 病院に通う必要がない。
- ・デメリット 死期の病人と同居、精神的苦痛等がある。

6.在宅ホスピスケアを受けるために

- ・地域包括支援センター
- ・病院(看護相談/在宅医療相談/地域医療支援室 など)
- ・在宅支援診療所
- ・訪問看護ステーション
- ・介護保険サービス、介護保険外サービス、友人、知人、ボランティア など

(文責編集委員)

府中ホスピスを考える会講座実施歴

	日付	テーマ	講師	(敬称略)
特	01/10/28	がんと向きあったとき、あなたならどう生きますか	聖路加国際病院名誉理事長	日野原 重明
1	02/02/17	「ホスピスの体験から」	ピースハウス病院ナース	杉本 真由美
2	02/04/28	「在宅ホスピスケアについて」	ピースハウス病院ナース	杉本 真由美
3	02/07/14	「緩和ケアで使われる薬について」	薬剤師(元ピースハウス病院職員)	玉井 照枝
特	02/10/11	アサヒタウンズ特別講演会「日野原先生」		
4	02/11/24	「心と身体の痛みを癒すには」	くらしき作陽大学教授	篠田 知璋
5	03/05/18	地域に密着した在宅ケアについて	平林医院院長	平林 竹一
6	03/06/10	ホスピスセミナー	桜町聖ヨハネホスピスケア研究所長	山崎 章郎
7	03/08/03	「ヨーロッパのホスピス事情」	府中ホスピスを考える会副会長	市村 晴子
8	03/10/26	家で最期をむかえるために-在宅ホスピスケアの実際	ホームケアクリニック川越院長	川越 厚
9	04/04/18	「家族の立場からホスピスケアを見る」	府中ホスピスを考える会会員	駒ヶ嶺 泰秀
10	04/09/10	輝いて生きる-人生の後半を-	聖路加国際病院名誉理事長	日野原 重明
11	04/11/07	コミュニティで考えるこれからのホスピスケア	聖ヨハネホスピスケア研究所研究員	長谷 方人
12	05/06/05	夫をガンで見送って-入院治療3ヶ月後の不安-	府中ホスピスを考える会会員	森山 レイ子
特	05/09/24	地域で生きる-尊厳ある生と死を求めて	聖ヨハネホスピスケア研究所長	山崎 章郎他
特	05/10/30	いのちと響き合う絵本	ノンフィクション作家	柳田 邦男
13	05/11/26	更年期障害と子宮癌	東府中病院長	十蔵寺 新
14	06/03/26	人間のいのちと死-終末期医療からみる	医学博士・医療法人恵風会施設長	渡邊 寛宣
15	06/05/21	千倉市『花の谷』(ホスピス)の紹介	府中ホスピスを考える会副会長	市村 晴子
16	06/08/20	NHKビデオによるホスピスに関する Q&A	府中ホスピスを考える会副会長	市村 晴子
特	06/09/09	永六輔 いのちを語る	ケアタウン小平・聖ヨハネホスピスケア研究所共催	
17	06/11/11	ときめく「命(いのち)」をいきる	青山学院大学講師	野村 祐之
18	07/04/01	さいごまで生きる施設-ホスピス-でのとき	ライフプランニングセンター所長	平野 真澄
19	07/06/24	「いのち輝かせて生きる」-こどもから老人まで	聖路加国際病院名誉理事長	日野原 重明
特	07/10/13	鎌田実 いのちを語る	ケアタウン小平・聖ヨハネホスピスケア研究所共催	
20	08/01/20	「地域におけるホスピスケア」-患者と家族の心を支える-	医療法人社団イバラキ会	高野 和也
21	08/05/25	「ホスピスケアにおける訪問看護の役割」	医王訪問看護ステーション地域看護専門看護師	宮田 乃有
22	08/08/03	阿伎留医療センター緩和ケア病棟の現状	公立阿伎留医療センター緩和ケア科・医師	戸澤 育文
23	09/01/25	ビデオによる「ホスピス緩和ケアの歩み」	府中ホスピスを考える会副会長	市村 晴子
24	09/05/17	府中市における訪問看護ステーションの現状	府中市医師会訪問看護ステーション所長	芝尾 幾世
25	09/11/15	ホスピスケアの核となる施設の実現に向けて	ボランティアまつりパネルディスカッション	会の役員
26	10/05/02	府中でも実現したい 地域で 家庭で ホスピス・緩和ケアを	ケアタウン小平クリニック院長 聖路加国際病院理事長	山崎 章郎 日野原 重明
27	10/08/22	在宅緩和ケア「いつでも…緩和ケア」のために	ピースクリニック中井院長	永山 淳
28	10/11/28	府中で「ホスピス」を実現したい	府中 NPO・ボランティアまつり	会の役員
29	11/05/22	ターミナルケアの現状と問題点	ながた内科クリニック院長	永田 宏
30	11/10/02	家族の立場から在宅ホスピスケアを考える	在宅看護利用者 荻野和子	宮田乃有(21 参照)
31	12/05/27	在宅医療(終末期緩和ケアについて)	せいわクリニック院長:拓鍼灸院院長 朴 正一:長友 拓也	

会計より会員の皆様へのお願い 会費の払い込みをどうぞよろしくお願いいたします。勉強会・講演会等当日でも、郵便局への振込でも結構です。振込用紙ご入用の方は、会計までご連絡いただければお送りいたします。 会計 宇田ひさ子 042-363-9271

編集後記:「府中ホスピスを考える会」通信第 16 号をお届けいたします。思えば平成 13 年にこの会を結成してすでに 11 年の歳月が流れました。この間重ねてきた勉強会は 4 ページに見る如く膨大なものになりました。飛び回った活動、市の行事に参加してホスピスと緩和ケアのあり方を皆さんと一緒に考えた回数も多くなりました。この間に政治の動き、社会の変化が大きく変わり始めています。さて私達はこの運動をどう総括し、新しい一歩を踏み出すべきなのでしょう。

「通信」編集委員 小澤、荒川、駒ヶ嶺、和田

発行元 府中ホスピスを考える会編集部 連絡先 小西厚子 042-361-2823